

第28回気仙沼市震災復興推進会議 事前質問に対する回答

No.	質問事項	回答	担当課
1	<p>先月、宮城県から新しい津波浸水地図が発表されましたが、これまでの復興事業の見直しや新しく対応する必要はないのでしょうか。</p>	<p>今回の津波浸水想定は、あくまで避難を中心とした津波防災対策を構築するためのものです。 今後、浸水想定区域内に立地する避難場所や地域ごとの津波避難計画の見直し、避難訓練の強化などにより、住民等が確実に避難できるよう取組を進めてまいります。</p>	<p>危機管理課</p>
2	<p>「復旧・復興の取組状況と課題」のP.19の総合交通政策において、これまでの主な取組状況として、「三陸沿岸道路延伸に合わせた仙台アクセスの改善」とありますが、市内10か所のインターチェンジでフルインターは2か所だけ、他のインターもフル化することでアクセスの改善に繋がると思うのですが、その取組と進捗状況はいかがですか。</p>	<p>「三陸沿岸道路延伸に合わせた仙台アクセスの改善」としては、令和2年11月に気仙沼～仙台間の高速バス直行便を、また、令和3年10月には宮古～気仙沼～仙台間を結ぶ高速バスの運行を開始するなど、都市間交通体系の再編整備に取り組んできたところです。</p> <p>また、フルインター化についてではありますが、本市には、沿線23自治体で最多となる10箇所のIC（インターチェンジ）が設置されており、IC間の距離も平均3.1kmと4番目に短い状況です。（-half ICを0.5でカウントした場合でも、IC数6箇所〔1位〕、IC間距離平均4.9km〔7位〕）</p> <p>一方で、half ICが8箇所と多いことで、観光客などからは目的地の最寄りインターが分かりにくいといった声もあり、フルインター化の有効性についても理解しております。</p> <p>三陸沿岸道路は全線開通から間もない状況で、現在は、国から提供される交通量のデータ収集などに努めているところです。</p> <p>今後、利用状況などの分析や利用者の意見を整理したうえで、市としての整備の方向性を検討してまいります。</p>	<p>交通政策課 土木課</p>